

# 理論経済

大西広研究会

栗野盛光研究会

小林慶一郎研究会

須田伸一研究会

玉田康成研究会

津曲正俊研究会

廣瀬康生研究会

藤原グレーヴァ香子研究会

# 大西広研究会

— (近代経済学を基礎とするマルクス経済学) —

## 1. 研究分野 マルクス経済学

## 2. 学生への要望

「独立自尊」の慶應生は真のエリートとして社会を客観的に科学する存在でなければならない。福沢諭吉はまさにそういう人であった。そして、それは自分の出自や所属階級の利益を離れることでもある。簡単なことではないが、その鍛錬の場が大学時代であった、ゼミの2年間であったと後で振り返えられる人生を歩んで欲しい。ので、わが研究会は就職のための研究会ではない。上記のような大志を持った人物の応募を期待する。ちなみに、大西研究会の募集は今回が最後となる。

## 3. 選考について

1 募集人数 約 10 名

2 選考内容

「マルクス経済学を学びたい」との強い意志と学力

3 他学部入ゼミ：OK

PEARL 生受入れの可否：現在パール生が 1 人所属しているが、私は 2022 年 3 月に定年なので多分今回は受け入れられない。学生部に問い合わせして欲しい。

## 4 選考基準

「マルクス経済学を学びたい」との強い意志と学力があるかどうか。最低限の数学力も求める。

# 栗野盛光研究会

—マーケットデザイン—

## 1. 研究分野

本研究会では、ミクロ経済学やゲーム理論を基礎として、広い意味での市場(マーケット)あるいは社会制度のデザインを研究します。純粋な経済理論と立場が少し異なり、マーケットデザインは、実際のマーケットをインセンティブ・効率性・公平性の観点から理論的に調べ、経済理論を実践し、よりよいマーケットを考えます。

指導教員は、これまでマッチング理論を中心に、その実践を研究しています。例えば、現在研究しているのは、日本のドナー交換肺移植制度、大学入試制度、新卒一括採用市場、進学振り分け、スポーツのトーナメント、移住マッチングなどです。また、自動運転・燃料電池車・IT・シェアリング経済など自動車に関連するモビリティイノベーションが起これ、それを支える社会制度として次世代自動車交通基盤も研究しています。

本研究会では、経済制度を見る目を養い、デザインする能力を身につけることを目標とします。まず、マーケットデザインに関する学部生教科書を輪読して理論道具を身につけます。必要ならば、ゼミ生の平均能力や関心に応じて、分析道具である数学、ゲーム理論、メカニズムデザイン等を学習します。同時に、少人数のグループに別れ、グループごとに研究する市場を決め、現制度を調べ、必要であれば新しい制度を提案してもらい

ます。

## 2. 学生への要望

要望1：ある市場をよくしたい、あるいは現制度に不満を持っていて、ミクロ経済学やゲーム理論を使って分析したい学生を歓迎します。

要望2：本研究会は、理論的に制度を分析します。自分自身で論理的に厳密に議論したい学生を歓迎します。現時点で高度な数学の知識(トポロジー、測度論、離散数学など)は必要ありませんが、必要に応じて、数学の講義を受けたり、自習したりと学ぶ姿勢が大事になります。

要望3：英語と日本語にこだわりませんが、ゼミでは日本語が中心になります。

要望4：1か月に1度ほど、パワーポイントを使って発表をします。

要望5：就職希望者と大学進学希望者のどちらも歓迎します。

## 3. 選考について

### 1 募集人数

A・B日程で10名程度

### 2 選考内容

A日程：筆記試験(ミクロ経済学)、面

接、成績

B 日程：面接、成績

3 他学部入ゼミ：不可

PEARL生受入れの可否：可。ただし、ゼミ時の会話は日本語、書き言葉は英日です。

#### 4 選考基準

筆記試験、面接、数学とマイクロ経済理論関係の成績により総合的に判断します。

# 小林慶一郎 研究会

— (金融危機、世代間問題などの理論と政策) —

## 1. 研究分野

本研究会の研究分野は金融危機や財政危機など「大きくて長期的な経済変動」についての研究が主なテーマである。2008年以降の欧米経済で起きた大規模な金融危機とその後の長期経済停滞や日本の少子高齢化や財政の慢性的な悪化、世代間の公平性などの問題が研究テーマの例である。

◇理論的テーマの例金融システム（銀行などの機能）、貨幣、財政（公的債務）の理論的な扱いについてはまだ多くの問題点が残っている。これらの問題を勉強することを通じて、新しい理論的な創意工夫や発見を目指す。

◇政策的テーマの例おもに財政の持続性の維持に必要な政策、危機脱却策など。世代間の公平性を再生するための政治経済思想についても考えたい。

### ◇ゼミでの活動

4年生は卒業論文、3年生はグループで三田祭論文を執筆する。

ゼミではテーマに関連する教科書や書籍、論文を輪読する。

また外部講師を呼び金融や財政の実務を勉強する場も設ける。

研究会メンバーはゼミの時間にプレゼンテーション(テキストの解説、自身の研究の進

捗状況などについて)をして、全員でディスカッションをする。

輪読テキスト(本年度から実施したいもの)

- ・チャールズ・ジョーンズ『マクロ経済学1, 2』
- ・Acemoglu, Introduction to Modern Economic Growth
- ・Allen and Gale, Understanding Financial Crises
- ・Ljungqvist and Sargent, Recursive Macroeconomic Theory

## 2. 学生への要望 研究は解くべきテーマ

や問題設定を発見することができれば9

0%完成である。自分の頭で研究テーマを

考え、課題設定を行うことを目指して勉強

を進めてもらいたい。事前の知

識としては、基本的なマクロ経済学と経済数学は一通り習熟していることが望ましい。

## 3. 選考について

1 募集人数

10名~15名程度

2 選考内容

面接（5分～10分程度）、成績表の事前提出。

3 他学部入ゼミ：受け入れ可

PEARL 生受入れの可否：日本語でゼミに参加できる PEARL 生は受け入れる。

#### 4 選考基準

面接の結果、成績表、志望動機の三つを勘案して判断する。志望動機として、ゼミで自分が研究したいテーマ（三田論、卒論のテーマ）についてなるべく具体的に説明し、研究の進め方のイメージを書くこと。

# 須田伸一研究会

## —理論経済学—

### 1. 研究分野

理論経済学は、複雑な現実経済を分析するために抽象的な理論モデルを構築し、そのモデルの性質を調べることによって、現実経済の動きに対する洞察を得ようとする学問である。つまり、複雑な現実経済を抽象化して捉えたものが理論であり、理論は現実経済を理解するための地図である。理論の理解ができてはじめて、経済現象を「説明」することができるようになる。モデルを構築する際の考え方の違いによって、理論経済学は伝統的にミクロ経済学とマクロ経済学に分類されているが、最近ではどちらの分野でも経済主体(家計、企業、政府などの意思決定主体)の最適化行動に基礎を置いてモデルが作成されるようになり、そのためミクロとマクロの方法論上の差異は縮まってきている。また、ゲーム理論、契約理論といった分析道具も、近年の理論経済学の研究には欠かせなくなってきた。私の専門分野は、ミクロ経済学の中の一般均衡理論という学問分野であるが、研究会では理論経済学一般の知識を身に付け、それを応用して現実経済を分析する能力を養うことを目的としている。また理論経済学は前提となる仮定から推論を一つ一つ積み上げていくものなので、その学習は論理的な考え方を身に付けるためにも役立つだろう。

### 2. 学生への要望

必修科目のマクロ経済学初級、ミクロ経済学初級(入門)の単位は取っておいてもらいたい。

また、数学アレルギーのある学生には向かない分野だと思うが、かといって高度な数学を知っている必要はない。数学については日吉設置の微分・積分や線形代数の内容を理解していれば、あとは研究会に入ってから勉強すれば何とかなる。それよりも重要なのは、理論経済学に対する(漠然としたものでよいから)興味と、論理的思考の癖であろう。

### 3. 選考について

#### 1 募集人数

10-15 名程度

#### 2 選考内容

ミクロ経済学、マクロ経済に関する筆記試験。成績表のコピー提出。面接。

なお筆記試験の準備としては、たとえば伊藤元重『ミクロ経済学 第3版』(日本評論社、2018年)の第1章から第10章、福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門 第5版』(有斐閣アルマ、2016年)の第1章から第8章の内容を理解していれば十分である。

#### 3 他学部入ゼミ：なし

PEARL 生受入れの可否： なし

#### 4 選考基準

選考基準:筆記試験の点数、面接の印象、  
1、2 年の成績、さらには入ゼミ願書の内容  
を考慮に入れて総合的に判断する。

# 玉田康成研究会

—マイクロ経済学, インセンティブ・契約理論, 産業組織論—

## 1. 研究分野

ゲーム理論や2016年のノーベル経済学賞受賞理由となった契約理論を分析ツールとして獲得したことでマイクロ経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功した。そのキーワードとしては

「インセンティブ」, 「戦略」, 「情報」, 「競争と協調」などをあげることができる。これらが相互に密接に関連しているのはもちろんであるが、とくに、経済主体に適切なインセンティブを与える方法は何かという問題意識を設定し研究を行いたい。市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり、経済主体が情報を戦略的に活用すると、典型的にはモラルハザードなどの問題が発生し、最近頻発している企業不祥事などを見ても分かるように経済活動を損なうことになる。上記キーワードを軸とした研究対象をより広範囲に考えると企業戦略・企業組織(産業組織論), 法と経済学, 公共経済学, 労働経済学などがある。ゼミ生は自らの関心に従って研究対象を選ぶこと

になる。広い意味では当研究会の研究分野はマイクロ経済理論とその応用といえる。

研究会の目標は「専門的知識としての経済学の習得と現実経済の分析」にある。教養を人や社会とのかかわり方とすると、重要な柱は「視点の確立」と「視野の拡大」の2つに求められる。現実経済に対する視野を広げ問題意識を培うことは重要だが、視点の裏づけがない問題意識はしばしば直感のみに頼った結論や処方箋に帰結する。謎に満ちた現実経済から問題を見つけ分析するためには、謎を解き明かす視点の確立が不可欠である。他方、視点を確認したとしても、視野を広げ問題意識を持たなければ何も視ていないことと同じである。

## 2. 学生への要望

- ① 学問に対する敬意と現実に対する関心, ゼミ活動への熱意のすべてを兼ね備えた学生の応募を望む。
- ② 論理的思考に抵抗がないことが重要である。マイクロ経済学やマクロ経済学の

授業を「面白い」と思えることが必要  
条件である。

- ③ 経済学の知識をセールスポイントにしたいという意欲を持って欲しい。

### 3. 選考について

- ① 募集人数：17名。A日程のみ募集する。
- ② 選考内容：筆記試験と研究プラン、および面接による。筆記試験は60分の教室内試験。出題範囲はミクロ経済学初級Ⅰ、Ⅱ。Keio.jp上の講義情報を参考にすること。研究プランでは問題意識と結論の展望をA4紙20行程度で事前に作成し、筆記試験時に提出。
- ③ 他学部入ゼミ：可、PEARL生受け入れ：可
- ④ 選考基準：筆記試験が60%。研究プラン+入ゼミ願書+面接が40%。

# 津曲正俊研究会

—マイクロ経済理論—

## 1. 研究分野

私は、マイクロ経済学、特に「契約理論」の分野を研究しております。契約理論は、制度・組織をどう設計したらよいかを検討する研究分野です。社会問題の多くは、人間行動の適切な制御に失敗した制度・組織設計の不備として説明できます。問題がなぜ発生するのか、解決策はあるのか、などを分析するために有用な理論です。

研究会では、特に契約理論に限定せずに、ゲーム理論を含むマイクロ経済理論を幅広く学び、それをを用いて現実の経済問題を分析する能力を磨くことを目的に活動します。第一の柱は、皆さんが日吉時代に学んだマイクロ経済学基礎の理解をさらに深めると同時に、「ゲーム理論」や「マーケットデザイン理論」など比較的新しいマイクロ理論分野を専門書の輪読・議論を通じて学習することです。第二の柱は、経済理論の応用分野の文献を読むことで、理論が現実問題の分析にどう用いられているか学習することです。国際貿易論、産業組織論を含むマイクロ経済理論を基礎として発展した応用分野の文献の輪読を考えております。2020年度に扱うテキストは未定ですが、研究会に在籍する2年間にマイクロ経済理論とその応用を幅広く勉強できるように配慮したいです。3年生のときには、経済問題の分析に経済理論

を応用する場としてパートごとの共同研究を推進してもらいます。また、関心に応じた研究テーマでの卒業論文を最後に提出してもらいます。

## 2. 学生への要望

経済理論は、必死になって考えて習得できることが多く、忍耐強さが要求される研究分野です。経済理論に高い関心を持つ学生の参加を望みます。パート研究や卒業論文に関しては、テーマに強い制約をおかず、学生の関心をできるだけ尊重していますので、経済理論の基礎研究と同時に、理論を用いた様々な応用研究に関心のある学生にも対応しうる研究会であると思います。ただし、円滑に運営する都合上、マイクロ経済学の基礎をしっかりと理解している必要があるため、入会選考でその点を重視します。

## 3. 選考について

### 1 募集人数

10名程度

2 選考内容 筆記試験（マイクロ経済学初級程度の内容）、面接（面接時に1・2年の成績表のコピーを持参すること）

- 3 他学部入ゼミ：可 PEARL 生受入  
れの可否：可（ただし、ゼミ活動は  
日本語で行います。）

#### 4 選考基準

筆記試験によりミクロ経済学初級の内容を理解しているか評価します。面接では学生の意欲を評価します。また、成績表で日吉での学習成果を確認します。これらの総合評価で可否を判定します。

# 廣瀬康生研究会

## ーマクロ経済モデルー

### 1.研究分野

マクロ経済モデルは、(1)現実の複雑な経済構造の理解を助けるための単純化、(2)経済情勢が今後どのように推移するかの予測、(3)政策変更の影響を計るシミュレーション、等を行うことができる分析ツールです。本研究会では、参加者がこうした分析手法を習得し、各自の問題意識に応じてモデル分析ができるようになることを目標とします。

マクロ経済モデルには様々な種類が存在しますが、本研究会では特に、フォワードルッキングな経済主体の最適化行動から導かれる行動方程式と市場の均衡条件を組み合わせた「動学的確率的一般均衡モデル (DSGE モデル: Dynamic Stochastic General Equilibrium Model)」を研究対象とします。DSGE モデルは、政策の波及効果を考える上で重要となる経済主体の期待の役割を明示的に取り込んでいるなど、政策分析に適した性質を有していることから、世界中の主要中央銀行や国際機関においても近年盛んに開発・運用が行われています。

DSGE モデルの理解には、大学院レベルの知識が不可欠だと考えられていますが、少人数でじっくりと取り組むことができるといふゼミの利点を生かせば、学部生にも十分習得可能だと思っています。

研究会では、まず、輪読または講義を通じて「DSGE モデルとは何か」、「DSGE モデ

ルがなぜ必要か」といった点について理解を深めます。その間、DSGE モデルを理解する上で必要となる経済学と数学の知識も同時に学んでいくことになります。次に、行列演算ソフトウェアである MATLAB を用いて、モデルの解法やシミュレーション技法を身につけます。最終的には、参加者が自ら DSGE モデルを構築し、現実のマクロ経済分析(経済変動の要因や財政・金融政策に関する分析など)に活用することを目指します。

### 1. 学生への要望

学部中～上級レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、微分積分、線形代数、統計学の知識が必要となります。具体的には、以下のテキストを読んで理解できることを前提とします。

・ George McCandless, The ABCs of RBCs: An

Introduction to Dynamic Macroeconomic Models, Harvard University Press, 2008.

・ 加藤涼『現代マクロ経済学講義—動学的一般モデル入門』東洋経済新報社、2006年。

参加者はゼミの時間以外にも、各自積極的に研究時間を確保することが求められます。

私の専門分野および研究内容については、以下

の個人 HP を参照して下さい。

<https://sites.google.com/site/yasuohirose/>

### 3. 選考について

- ① 募集人数：5～10名
- ② 選考内容：レポートおよび面接（日吉での履修科目・成績を重視します。）
- ③ 他学部入ゼミ：可 PERL 生受け入れ：不可
- ④ 選考基準：上記「2. 学生への要望」を参照して下さい。

# 藤原グレーヴァ香子研究会

—マイクロ経済学・ゲーム理論—

## 1. 研究分野

担当者の専門分野はマイクロ経済学および非協力ゲーム理論です。本研究会ではこれらの理論を、輪読を通じて勉強するとともに、必要に応じて数学もサブゼミなどで勉強します。

それぞれの理論の具体的な内容は以下の通りです。

マイクロ経済学：中級レベルのマイクロ経済学を学びます。具体的には、「均衡」や「効用関数」など、日吉で習ったマイクロ経済学において重要な概念の数学的基礎付け、拡張した理論などを勉強します。直感的に理解していたものを論理的に捉え直したり、もっと幅広いものが含まれていることを理解することで、経済学の「深さ」や「おもしろさ」を感じることができると思います。

非協力ゲーム理論：ゲーム理論とは「社会における利害対立の数学的分析」であり、本研究会ではその中でも非協力ゲーム理論を扱います。非協力ゲーム理論の有名な例として「囚人のジレンマ」がありますが、これは最も単純なものであり、理論そのものを厳

密に勉強するには高度な数学的知識と論理的思考能力が必要になります。そのぶん、多くの興味深い結果がゲーム理論によって得られており、近年、ゲーム理論は経済学だけでなく経営学や政治学にも欠かせないものとなっています。

3年生ではこれらの理論を丁寧に学び、理解するまでが目標となります。4年生は、学んだことを生かして自分の興味のある経済問題を分析し、卒業論文としてのアウトプットが作れるようになるのが最終目標です。

また、ゲーム理論の応用として、「他人の立場に立つて」考えられるようになることで、プレゼンの能力をつけることも重視しています。

## 2. 学生への要望

本研究会は、マイクロ経済学や非協力ゲーム理論といった理論を学ぶ研究会です。したがって、日吉で学んだマイクロ経済学や数学の知識が必要になります。本研究会を志望する際にはそれらを復習し、基礎を固めて

いるとよいです。

また、本研究会では自分の頭で考えることを重視しています。したがって、必ず予習をし、ゼミに積極的に参加する必要があります。その際、難しい問題に対してすぐに「わからない」と思考放棄をせず、じっくりと時間をかけて考え、関連文献を調べて、まずは自分なりの答えを出すという姿勢が重要です。初心者のおときは間違えることがあっても、それにくじけず直していくことで2年

### 3. 選考について

#### 1 募集人数

A,B 両日程合わせて約 10 人

#### 2 選考内容

英語で書かれたミクロ経済学初級レベルの文章を読み、要訳または全訳、およびミクロ経済学初級レベルの計算問題。成績表のコピー提出。(日吉のミクロが D の方はご遠慮下さい。) PEARL 生以外は面接はありません。(英和辞典のみ持ち込み可。電子辞書可。経済学用語辞典は使用不可。)

#### 3 他学部入ゼミ： 不可

PEARL 生受入れの可否：日本語の議論についてこられる人は受け入れます。日本

間でかなりの理論的実力がつきますので、粘り強く取り組んでください。大学レベルの理論や数学は高校数学とはまったく異なる勉強法でやりますので、高校数学が苦手であってもかまいません。「定義とそれに基づく論証」という作業を、時には数学の定理の知識も使って行います。これらをしっかりとやりたい意欲と努力だけが重要です。

(A 日程でこのくらいの人数になった場合、

B 日程は行いません。)

語

の能力について面接を行います。(ハンドアウトや卒業論文は英語も可。)

### 4. 選考基準

研究会についてこられるレベルかを答案で判断します。英語の試験はゼミの予習と同じ作業となっていますので、時間内になるべく多く、経済学的に正確に理解したかを見ます。また、理論の基礎も大切ですので計算問題が出来ない場合、自動的に不合格となります。